

## 骨太の方針2020

- ✓ 大型研究施設の戦略的な推進、最大限の産学官共用
- ✓ 研究設備・機器等の計画的な共用の推進
- ✓ 研究のデジタル化・リモート化・スマート化の推進に向けた基盤の構築

### 3. 「人」・イノベーションへの投資の強化 - 「新たな日常」を支える生産性向上

デジタル化等の課題への対応により社会変革を牽引し、Society 5.0を世界に先駆けて実現するため、リーマンショック後の投資停滞を繰り返さないよう、新たな時代を切り拓き、真に社会と共にある科学技術・イノベーションを強力かつ戦略的に推進する。

#### (2) 科学技術・イノベーションの加速

「世界で最もイノベーションに適した国」に向けて、人文科学の知見も活用して未来を変革し、世界を先導していく。(中略)

最先端の基盤的技術であるデジタル化・リモート化、AI・ロボット、量子技術、再生医療、バイオ、マテリアル革新力、革新的環境エネルギー…の研究開発を戦略的に進める。(中略)

研究開発への更なる民間資金の活用、世界の学術フロンティア等を先導する国際的なものを含む大型研究施設の戦略的な推進、最大限の産学官共用を図るとともに、民間投資の誘発効果が高い大型研究施設について官民共同の仕組みで推進し、予算を効果的に執行する。また、科学研究費助成事業などの競争的研究費の一体的見直し、研究設備・機器等の計画的な共用の推進、研究のデジタル化・リモート化・スマート化の推進に向けた基盤の構築等を図る。

## 成長戦略フォローアップ

- ✓ 先端的な大型研究施設・設備や研究機器を戦略的に活用
- ✓ 集約配置等による研究設備の整備・共用（コアファシリティの強化）等を促進  
- 研究設備・機器の共用化のガイドラインを2021年度までに策定し、各大学等による研究設備等の共用方針の策定・公表を促進
- ✓ 遠隔操作可能な実験装置の導入など、共用研究設備等のデジタル化・リモート化を推進

### 4. オープン・イノベーションの推進

#### (2) 新たに講ずべき具体的施策 イ) 研究力の向上

- 研究設備・機器の共用化のガイドラインを2021年度までに策定し、各大学等による研究設備等の共用方針の策定・公表を促進する。また、集約配置等による研究設備の整備・共用（コアファシリティの強化）等を促進するとともに、効率的な研究体制の構築のため、遠隔操作可能な実験装置の導入など、共用研究設備等のデジタル化・リモート化を推進する。さらに、先端的な大型研究施設・設備や研究機器を戦略的に活用するとともに、研究ニーズ等に柔軟に対応可能な国立大学等施設の整備計画を2020年度中に策定する。

## 統合イノベーション戦略2020

### 第Ⅱ部 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による我が国の難局への対応 – 第2章 具体的施策

#### 2. 停滞する科学技術・イノベーション活動への支援～緊急支援（研究者の雇用や研究活動継続等の支援）～

##### ② 研究活動の維持

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、研究活動の停滞や博士課程学生、ポスドク等の若手研究者のキャリア・雇用への影響も懸念されることから、現場における研究活動への影響を十分把握するとともに、競争的研究費について状況に応じた柔軟な対応や研究設備の遠隔化・自動化の推進など、博士課程学生や若手研究者をはじめとする優れた研究者等の雇用及び研究活動の継続等への支援に取り組む。

#### 3. デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進と強靱で持続可能な社会・経済構造の構築～反転攻勢と社会変革～

##### ① デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進

- 全国規模で研究開発をシームレスに連動させ、その活動を継続できる環境の実現に向け、AI、ロボット技術を活用した実験の自動化などスマートラボの取組や、遠隔地からネットワークを介して研究インフラにアクセスし分析等を実施する取組の推進、高速通信ネットワークの整備、大規模な計算資源の徹底活用、研究データ等の効果的・効率的な創出・共用・利活用環境の整備等、研究開発環境と研究手法のデジタル転換を推進する。

### 第Ⅲ部 各論 – 第2章 知の創造

#### (1) 価値創造の源泉となる研究力の強化（若手研究者の挑戦支援、人文・社会科学の更なる振興等）

##### ② 目標達成に向けた施策・対応策

###### (研究環境の充実)

- U R Aの質保証制度の創設や技術職員等の功績を表彰するための文部科学大臣表彰の創設など、マネジメント人材やU R A、エンジニアなどのキャリアパスを確立する。
- 研究設備・機器の共用化のためのガイドライン／ガイドブックの策定等により、研究設備・機器の整備・共用化（コアファシリティ強化・リースの活用等）を促進する。
- 最適な研究設備・機器へのアクセスの確保に向けた、各施設・設備のネットワーク化、共用プラットフォーム構築を進めるとともに、研究室におけるAI・ロボット等の活用によるスマートラボトリ化を促進する。